

保育計画成果報告書

法人名	特定非営利活動法人 こどもコミュニティケア
施設名	ちっちゃなこども園ふたば
報告者（役職）	北 弥生（主任保育士）
住所・連絡先	兵庫県神戸市垂水区舞多聞東2丁目6-9-1
	☎ 078-784-5333
	E-mail office@children-cc.org

○タイトル（保育計画）

「障害や生まれつきの病気があってもなくても、みんな一緒に育ち合おう」の共生保育を広げる

○主な助成備品

療育用子どもチェア・子どもテーブル・屋根付き玩具棚ドーム
複数人乗りバギー（リクライニング機能付き）

1. 保育計画策定の目的

2015年、ちっちゃなこども園ふたばは小規模保育事業として開園いたしました。当園は、シュタイナー教育を基礎とした保育を行っています。子ども達の日々の暮らしのリズムを大切に、保育の中に自然との触れ合いを多く取り入れています。個性や発達に応じた関わり、それぞれに必要なケアを、保護者の方と共に考え、家庭と2人3脚で、子ども達の成長を見守ってまいりました。

その中で、毎日使う椅子やテーブル・遊具は、子ども達が様々な場面で触れるものであり、成長に合わせてより良い物を選ぶことがとても大切だと考えています。子ども達が創造性を持ち意欲的に友だちと関わり合える保育空間を作っていきたいと考え、保育計画を策定いたしました。

2. 具体的な実施内容

① 療育用子どもチェア

家具職人さんと相談を重ねて、特別にデザイン・製作していただきました。お座りが少し不安定な子どもたちは、椅子の真ん中のバーが体を真っ直ぐに支えてくれるので、安定した姿勢で食事や他児との活動に参加できるようになりました。椅子の高さが調整できるので、しっかりと椅子に座ることができるようになるまで長く使用できます。また、木製なので丈夫でずっしりと重量感もあり、座った状態からの転倒の危険もなく安全面にも優れています。バーは取り外しもでき、側板も高さ調整ができます。なにより木の肌触りが、子ども達の手に優しさと温かみを感じさせてくれています。



② 子どもテーブル

子ども達の人数や使用目的に応じて台形テーブルの組み合わせを変え、多様な使い方をしています。組み合わせを変えることで、いつもと違う顔合わせになりお話に花が咲きます。テーブルは、ひとつひとつ手作りなので、椅子に合わせて高さを調整していただきました。

大人も子どもの間に入り、食事介助がスムーズに行えます。

形が統一されているので、使用しない時は部屋の環境として圧迫感なく配置することも可能になりました。



③ 屋根付き玩具棚ドーム

おままごとが始まったり、座って絵本を読んだり、子ども達が自然に集まり年齢を問わず、自由な発想で遊びが展開しています。

アーチ状の屋根には、優しい色の布をかけることで、包み込まれるような温かい光の空間が生まれました。

すべて木製なので、木のお家の中にいるようなやわらかな風合いが感じられ、保育室との調和もとれ室内の環境に一体感ができました。



④ 複数人乗りバギー(リクライニング機能付き)

独歩でのお散歩が難しい子ども達が、複数人乗りバギーに乗ってみんなと一緒に散歩に行けるようになりました。リクライニング機能が付いているので、一人ひとりの子どもに適した対応ができ、座位の姿勢に負担をかけることなく散歩に出かけることができます。



3. その成果と評価

- 乳幼児の成長発達や一人ひとりの状態に添った椅子・テーブル・バギーを用意することで、子ども達同士が目線を合わせ、様々な活動に参加できるようになりました。『みんな一緒に育ち合う』という理念の体現に近づけたように感じています。

- 療育用子どもチェアについては、子ども自身が愛着をもって(自分の)椅子に座るようになったと感じています。

椅子やテーブルのサイズを変更する際には「もう大きくなったからね!」と得意そうに話しをする姿や、他児からは「これは〇〇ちゃんのお椅子なんだよ」「〇〇ちゃんどうぞ!」と、友だちを思いやる声なども聞こえ、微笑ましい姿が見られるようになりました。

テーブルについては、子ども同士のつながりを観察したいときや、部屋の空間を変えたいときの保育アイテムの一つとしても、日々活用し工夫を重ねています。

椅子やテーブルの重要性を再認識し、意識的に一人ひとりの成長発達や必要性を考えるようになりました。また、療育用子どもチェアを使用することで安心して見守ることもできるようになりました。

- 複数人乗りバギーについては、お友だちや保育者の声・表情を近くに感じ、風や光など季節の移り変わりを感じることも日常的にできるようになりました。みんな一緒に楽しい雰囲気を共有できるようになり、素敵な時間が過ごせています。
- 屋根付き玩具棚ドームについては、購入時にはアーチ状の天井に布はかかっていませんでした。子ども達は、新しい遊具に飛びつき賑わっていましたが、落ち着いて遊びこんでいなかったように感じました。そこで、布をかけるというアドバイスを受け優しい色合いの布をかけました。布の下は淡い光と色の世界が広がり、子どもが遊びこめる場所をつくることができました。

4. 今後の課題と展望

保育環境は固定されたものではなく、年齢や一人ひとりの発達・興味に合わせて常に変化していくものであります。

この度の有意義な助成のお蔭で、私たちの保育が、想像していた以上の広がりへと繋げていくことができました。

今後も子どもの姿をしっかりと捉えながら保育環境を整えていき、日々の生活の中で、人間形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分から関わろうとする意欲や健全な生活を営むための必要な態度がうちかわれるようにしていきたいと考えます。

以上